

観音寺中学校 道德通信 4月号

令和7年度がスタートしましたね。中学校に入学したばかりのピッカピカの1年生、進級して「先輩」という立場になった2年生、「最上級生」そして「受験生」でもある3年生。新生活がスタートするときは、緊張や不安で必要以上に疲れてしまうかもしれませんが、リラックスタイムを取り入れつつ、自分のペースで歩いていきましょう。

さて、今回は1年生の道德の教科書に掲載されている「道德科とは」という文章をご紹介します。

道德科の時間は自分自身の心を見つめ、人間としての生き方を考える時間です。生き方は人それぞれちがいます。正しい答えを見つける時間ではありません。

教材を基に、対話を通して、さまざまな人の生き方にふれたり、ほかの人の感じ方や考え方を聞いたりすることにより、深く考え、将来に向けて自分自身の生き方を見つける時間です。

大切なのは自分の考えをもつことです。そして、自分とはちがうほかの人の感じ方、考え方にふれ、もういちど考えることです。すると、新たな発見があるにちがいありません。

きっと、もっとすてきな「自分」に出会えることでしょう。

「新編 新しい道德①」より

道德の授業で教科書を読むことは、国語の長文読解とはちがいます。正しい答えをみつける必要はありませんし、ほかの人と同じ答えをみつける必要もありません。登場人物と自分を重ね合わせて、自分だったらどう思うか、自分だったらどう行動するかなど考えることで、自分自身を見つめ直してみたいと思います。



道德通信3月号の返信より

- ・ 道德で学んだ「思いやり」や「感謝の心」等は、無形で不可視であるからこそ、かけがえのない、大切なものであると思います。多様化する中で、一人ひとりが自分らしさを見失うことなく、互いに尊重し合える人間関係を家庭や社会において構築できたらと思います。
- ・ 道德が4つの分類から学んでいる事を初めて知りました。主に他人や社会とのかかわりについてだけかと思っておりましたが、自分自身や自然環境についても学べるのは大切な授業だと改めて思いました。日本人として、昔から伝えられたり、意識に備わっている事など、大人になっても大切にしたいと思いました。
- ・ 人との付き合いはまだまだ今からも、大人になっても続いていくことです。その中で、今学んだ事を活かせるように頑張りたいと思います。命に軽いものは何一つありません。皆が一つ一つを大事にしていけばきっとなにかが違はず。
- ・ 1年間の道德の授業や講演を通して、自分と向き合い、他人を認めて社会を知ってたくさん感じたと思います。子供達の感想はとても前向きで希望に満ちています。感想に留めずにこれからの生活に溶け込む学びになっていければいいなと思います。

- ・ 道德の授業や、日々の生活の中から社会性を身に付けていって欲しいと思います。親としても手本となるような行動を取らねばと思います。
- ・ 中学生という多感な時期に道德という授業で、いろんな事に気がつかせていただいたと思います。三年間ありがとうございました。感謝の心や、人を思いやる気持ちなど、自分自身も子どもに伝えながら、過ごしていきたいと思います。
- ・ 日々の生活の中で考える力がどんどん身についているのかなと思いました。何か起きたときに考えて行動できるようになってほしいと思います。
- ・ 子供達に、道德の授業をして心を育てていただきありがとうございます。身近な人には、ついつい忘れてしまう感謝の言葉、言葉で伝えて相手の立場になって物事を考える事で、お互いの関係がよくなりますよね。家庭内から、どんどん実践して心の成長も促していきたいです。

ご返信、ありがとうございました♪

道德通信は毎月1回、観音寺中学校道德の日に発行しております。道德の授業の様子や、よりよい生き方を考えるためのヒントを紹介していきますので、よろしくお願ひ致します。

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。